

# 身体活動が少ない 重症心身障害児（者）における栄養評価 －釜石病院での取り組みについて－

渡邊 一礼<sup>1)2)†</sup> 津田 朱里<sup>1)</sup> 土肥 守<sup>3)</sup>2021年10月23日～  
11月20日WEB開催

IRYO Vol. 77 No. 4 (251-256) 2023

## 要旨

重症心身障害児（者）は、脳性小児麻痺や各神経疾患、障害により身体活動が少なく、摂食・嚥下障害を併発しやすいことから、各種栄養素の過不足が生じやすく、栄養管理に難渋する場合が少なくない。そのため、国立病院機構釜石病院では、慢性期型の栄養サポートチーム（NST）活動を継続しながら、身体活動が少ない重症心身障害児（者）に対する栄養評価として、体組成、微量元素、排便状況の栄養評価を行い、患者個々の状態に合わせた栄養管理に取り組んでいる。

体組成に基づく栄養評価・栄養管理では、生体電気インピーダンス法にて体組成を経時的に測定・評価し各種栄養量を調整する栄養管理を継続している。身体活動量が少ないことから、除脂肪量を増量するのは困難であり、体脂肪量や内臓脂肪量が増加しやすい状態であったが、体組成に基づいた栄養管理により、除脂肪量の減少を抑え、内臓脂肪過多を改善できた。微量元素については、静脈・経管栄養などで欠乏しやすいセレンに着目して調査し、セレン摂取量が充足していた経口摂取患者でセレンの欠乏が明らかになったが、補助食品による補給でセレン欠乏が有意に改善した。また、排便コントロールを目的に水溶性食物繊維を付加すると、排便回数や下剤、浣腸の使用が減少し、排便状況の改善が認められた。

以上より、重症心身障害児（者）は、除脂肪量が少なく体脂肪量や内臓脂肪量が多い身体組成から低栄養や過栄養のリスクが高い上に、セレンなどの微量元素が不足しやすく、便秘を慢性的に抱えている状況であった。そのため、従来からの体重測定や血液検査、食事摂取量のみならず、体組成や微量元素、排便状況なども定期的に測定し、患者個々の状態にあった栄養計画を立案・実行しながら慢性期型NSTも活用していくことが、重症心身障害児（者）の栄養評価・栄養管理に有用であると考えられた。

キーワード 重症心身障害児（者）、栄養評価、体組成、微量元素、便秘

1) 国立病院機構釜石病院 栄養管理室, 2) 国立病院機構弘前総合医療センター 栄養管理室, 3) 国立病院機構釜石病院リハビリテーション科 †管理栄養士

著者連絡先: 渡邊一礼 国立病院機構弘前総合医療センター 栄養管理室 〒036-8545 青森県弘前市大字富野町1番地  
e-mail: watanabe.kazunari.un@mail.hosp.go.jp, k.watanabe19860123@gmail.com  
(2022年3月31日受付 2023年4月14日受理)

Nutritional Assessment in Patients with Severe Motor and Intellectual Disabilities with Low Physical Activity.: Approach at Kamaishi Hospital

Kazunari Watanabe<sup>1)2)</sup>, Akari Tsuda<sup>1)</sup>, and Mamoru Doi<sup>3)</sup>

1) Department of Nutrition Management and, 2) Department of Nutrition Management NHO Hirosaki General Medical Center, 3) Department of Rehabilitation, NHO Kamaishi Hospital.

(Received Mar.31, 2022, Accepted Apr.14, 2023)

Key Words : patients with severe motor and intellectual disabilities, nutritional assessment, body composition, trace element, constipation